

平成26年

第1回教育委員会会議録

秋田県教育委員会

平成26年第1回教育委員会会議録

1 期 日 平成26年2月6日 木曜日

2 場 所 教育委員室

3 開 会 午後2時00分

4 閉 会 午後2時40分

5 出席委員 田中 直美

猪股 春夫

北林真知子

長岐 和行

伊藤佐知子

米田 進

6 説明のための出席者

教 育 長 米田 進

教育次長 栗津尚悦

参事(兼)博物館長 風登森一

施設整備室長 能登谷敏

幼保推進課長 廣野宏正

高校教育課長 鎌田 信

生涯学習課長 平川祐作

保健体育課長 越後谷真悦

教育次長 福田世喜

総務課長 金田 恵

教職員給与課長 村上幸義

義務教育課長 吉川正一

特別支援教育課長 西嶋崇広

文化財保護室長 佐々木人美

福利課主幹 田久保 清治

7 会議に附した議案

議案第 1号 秋田県教育委員会の事務委任及び臨時代理等に関する規則の一部を改正する規則案について

8 議決した事項

議案第 1号 秋田県教育委員会の事務委任及び臨時代理等に関する規則の一部を改正する規則案について

9 報告事項

- ・平成26年度秋田県立中学校入学者選抜結果について
- ・平成26年度秋田県公立高等学校入学者選抜前期選抜学科別志願状況
- ・平成27年度秋田県公立高等学校・県立中学校入学者選抜に係る日程について
- ・平成26年3月卒業予定者の就職内定状況について

10 会議の要旨

【田中委員長】

ただいまより、平成26年第1回教育委員会会議を開催いたします。

会議録署名員は2番北林委員と4番伊藤委員にお願いします。

はじめに、議案第1号「秋田県教育委員会の事務委任及び臨時代理等に関する規則の一部を改正する規則案について」総務課長から説明をお願いします。

【総務課長】

議案第1号「秋田県教育委員会の事務委任及び臨時代理等に関する規則の一部を改正する規則案について」説明

【田中委員長】

議案第1号について説明していただきましたが、質疑等ございませんか。

【長岐委員】

法律と規則との整合性を考慮しての改正だと思いますが、具体的にこれまでとどこが変わるのか、端的に教えてください。

【総務課長】

今まで一般職員につきましては、議案として教育委員会に諮ることはしてきませんでした。が、今後は、一般職員につきましても議案として教育委員会にお諮りして、議決をいただくという形になります。

【田中委員長】

これまでは、教育長が専決をした上で発表前に提示していただいておりますが、より法の趣旨に則った形でできるように、今回の改正になったと理解してよろしいですか。

【総務課長】

はい。そのとおりです。

【田中委員長】

他になければ、表決を採ってよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【田中委員長】

それでは、表決を採ります。

議案第1号を原案どおり可決することよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【田中委員長】

それでは、議案第1号を原案どおり可決します。

次に、報告事項に入ります。

「平成26年度秋田県立中学校入学者選抜結果について」高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

「平成26年度秋田県立中学校入学者選抜結果について」説明

【田中委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

私から質問させていただきます。

横手清陵学院中学校についてですが、募集人員を70名にしたのは今年度からでしょうか。

【高校教育課長】

はい。そうです。

【田中委員長】

昨年の志願倍率は0.84ですが、今年よりも志願者はもっと多かったということですね。

【高校教育課長】

はい。そうです。

【田中委員長】

今までの推移を見ますと受検生が年々減っていますが、昨年の説明では、横手市内で新しい中学校が開校したというお話でしたが、今年はどうのように分析されていますか。

【高校教育課長】

昨年4月に、横手北中学校が開校しており、その影響があるということは今年度も同じだと思います。それ以前にも、横手明峰中学校が開校しておりますので、立て続けに新しい中学校ができていくことが理由の一つ挙げられます。また、横手清陵中学校の近くに、横手南小学校という小学校があり、例年この小学校から多くの子どもが受検しますが、今年横手南小学校の6年生が激減し、122名から77名に卒業生が減ったことも大きく影響していると分析しています。

【田中委員長】

今年度は10名の定員割れですが、在籍する生徒数が少ない状況が続くと、学校の活力にも色々と影響が出てくると思いますので、もっとたくさん受検してもらえるように、学校の魅力をも

つと伝えたり、中学校の在り方を見直すなど、対応策は色々と考えられると思いますが、これからのことについてのお考えを教えてください。

【高校教育課長】

広報活動については、横手清陵学院は地元のFM局を利用してPRしたりしています。その他、パンフレットやリーフレットを作成して県南地区の全ての小学校に配付したり、校長が自ら市町村教育委員会や小学校を訪問してPRしたり、考えられることはおおよそ全てのことを行ってきていると思います。教育内容についても、横手清陵学院高校では、SSHの指定を受け頑張っており、高校卒業の段階では色々と成果を出しておりますので、中高一貫校としての出口の部分をもっと小学校の保護者の方にPRできるような策を講じていく必要性を感じています。

また、平成28年に中央地区の中高一貫校ができるときには、全県一区での募集になりますので、それを一つの契機として、募集の在り方やPRの在り方について考えていきたいと思っています。

【北林委員】

大館国際情報学院中学校は、女子の多さが一目瞭然ですが、どうしてこのような男女比なのでしょう。

【高校教育課長】

商業高校を母体とした中高一貫校であることも影響していると考えております。当初から女子の比率が高く、男子数を増やしたいと思いPRをしてきてはおりますが、女子の比率が高いと部活動にも影響することも多く、危惧しているところです。

【北林委員】

他の商業高校では、ここまで女子の比率が高いところはないと思いましたが、いかがでしょうか。

【高校教育課長】

ここまでのところはありません。

【北林委員】

商業だからという理由だけでは、説得力がないと思います。

【高校教育課長】

大館国際情報学院では、グローバル人材の育成の点から、英語教育にも力を入れていることも女子が多い理由の一つかと推測しています。

【田中委員長】

男女比が偏っている状態で、学校では特に困っていることはないということでしょうか。

【高校教育課長】

今のところ、困っているという話はありませんが、学校としてももう少し男子が増えればいいなど考えているようです。

【田中委員長】

他になければ、次に、「平成26年度秋田県公立高等学校入学者選抜前期選抜学科別志願状況」について、高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

「平成26年度秋田県公立高等学校入学者選抜前期選抜学科別志願状況」について説明

【田中委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

【猪股委員】

昨年から試験内容等が変わったと思いますが、そのことの影響はありますか。

【高校教育課長】

直接的な影響は聞こえてきてはおりませんが、中学校側の影響の方が大きいのかなと捉えております。送る側として、前期に学科試験があることから、しっかり勉強しなければならないという意識付けはしっかりできていると思います。

【義務教育課長】

これまでは、必ずしも学科ばかりではないということから、高校に入学してから、能力のある部分はよくても、教科の面で問題があるという批判は確かにありました。その点では、中学校でも危機感をもっていただいておりますので、そういう面でプラスの方向に向かっているのではないかと捉えております。

【長岐委員】

募集定員のうち何割を前期選抜にするかは、学校の判断でしょうか。

【高校教育課長】

前期の割合は、5%から30%までとしております。その範囲内で何%にするかは、学校で決めていくこととなります。

【田中委員長】

他になければ、次に、「平成27年度秋田県公立高等学校・県立中学校入学者選抜に係る日程について」高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

「平成27年度秋田県公立高等学校・県立中学校入学者選抜に係る日程について」説明

【田中委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

特になければ、次に、「平成26年3月卒業予定者の就職内定状況について」高校教育課長から説明をお願いします。

【高校教育課長】

「平成26年3月卒業予定者の就職内定状況について」説明

【田中委員長】

ただ今の説明について、質疑等ございませんか。

【長岐委員】

4年くらい前は、ありとあらゆる所に校長先生や高校教育課長が出歩いて、就職先を見つけたりしていましたが、現在も、地道な作業は続けているのでしょうか。

【高校教育課長】

続けています。

【長岐委員】

未内定者は60名ですが、一般的に考えられる理由について、差し支えない範囲で教えてください。

【高校教育課長】

最近の試験は、面接だけでなく筆記試験も行い合否を決める所が多くなってきており、筆記試験で必要な点数を取れず、落ちてしまうことが多いと聞いています。また、落ちてしまう生徒は、何回も落ちてしまう傾向があり、その理由は、コミュニケーションがうまく取れないことが多いと聞いています。

【田中委員長】

何回もトライはしているけど、なかなか決まらない生徒が現在も残っているということでしょうか。

【高校教育課長】

全ての生徒がそういうわけではありませんが、多くの生徒は、一度は試験を受けております。残っている生徒は、2回目がなかなか見つからないか、あっても筆記試験がうまくいかなかったりしているのではないかと思います。

【田中委員長】

そうすれば、求人がないというわけではないのですね。

【高校教育課長】

求人は、これまでよりはあるのではないかと思います。ただ、求人の数が多くなっても、色々な内容の求人がありますので、数が増えたからと言って、必ずしも生徒に合う求人が増えたわけではないと考えています。今年は特に職種に偏りがありまして、特に建築系の求人が増えております。

【伊藤委員】

雇用の形態はいかがでしょうか。

【高校教育課長】

高校で就職をさせるときは、ほとんどが正規雇用と考えていいと思います。

【伊藤委員】

特別支援学校の就職状況は、今回の報告に含まれないのでしょうか。

【特別支援教育課長】

特別支援学校の生徒の中にも、一般企業への就職を目指している生徒がおり、年々増えてきております。今年度は、全県の卒業予定者のうち75名が希望しており、そのうち8割ほどが決まっております。特別支援学校の場合、企業との面接だけで判断していただくのではなく、知的障害の子どもが多いことから、その企業で何度も実習を重ねて、本人が働いていけるかを試し、企業には障害を理解していただいて、健常者の7割程度であれば助成金がありますので、そういう制度を活用して、就職に向けて進めております。3月初めの卒業式が終わっても実習を行い、3月末ぎりぎりに就職が決まるケースもあります。特別支援学校卒業生の3割5分が就職に向かっており、職業教育の事業の成果もあって、就職率は上がっております。

最近では、高校にも、発達障害等の特別な支援を要する生徒が多くおりますので、特別支援教育課の事業の中で、高校支援隊として、特別支援教育の専門の者が相談に乗ったり支援したりしています。

【伊藤委員】

私が一番心配しているところでした。高校に進学する生徒の中にも、発達障害やコミュニケーション障害の生徒は多くおり、保護者がどれだけ理解をもって子どもの障害を考えるかにもよるのだと思いますが、最終的には引きこもりとかニートのような状態になってしまっていることも多くあるようでしたので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

【猪股委員】

比較するのは難しいかも知れませんが、全国的には、高校生の就職状況はどのような状況でしょうか。

【高校教育課長】

12月上旬の段階では、上位にあると聞いております。

【猪股委員】

全国的な平均はどのくらいでしょうか。

【高校教育課長】

後で報告したいと思います。

【田中委員長】

予定された案件は以上ですが、他にございませんか。

なければ、以上で本日の会議を閉じます。お疲れさまでした。